

—はじめに—

阪神・淡路大震災から20年がたち、震災を経験した西宮においても震災を知らない若い世代が増えています。震災の記憶の風化が懸念される現在、震災の経験やそこから得られた教訓を継承するため、「阪神・淡路大震災20年誌」を発行することといたしました。

今後、南海トラフ巨大地震といった大災害に備えるためには、行政・市民・地域団体・事業者などそれぞれが防災の主体として当事者意識を持つことが求められます。震災から20年の節目を迎えるにあたって、本冊子があらためて震災を振り返り、来るべき大災害への備えについて考える機会となれば幸いです。

CONTENTS

page ●	1.17を忘れない	19 ●	これから私たちが取り組むこと
3	その時まちは	20	「減災」の取り組み
7	救援作業・市民の助け合い・各地からの支援	22	震災の教訓から見えてくるもの
9	復興への取り組み	23	1 命を守る耐震化
11	まちなみの変化	25	2 災害時に備えた備蓄
15	20年の思い	27	3 災害時の情報収集・伝達
	・認定NPO法人日本災害救援ボランティアネットワーク 常務理事 寺本弘伸	30	4 地域の取り組みがまちを救う
	・辰馬本家酒造株式会社 取締役 壱岐正志	36	5 学校での学び
	・ボランティアグループ「ゆりの会」	39	減災の「心・技・体」…次の巨大災害に備えて
	・西宮コミュニティ放送株式会社 代表取締役社長 北村英夫		・公益財団法人 ひょうご震災記念21世紀研究機構 副理事長 室崎益輝
		40	災害に強いまちづくりに向けて
		42	市長メッセージ

阪神・淡路大震災の概要

この地震は、日本で初めての近代的な都市における直下型地震であり、「阪神・淡路大震災」と呼称されています。震源地は淡路島北部、震源の深さは16km、地震の規模はマグニチュード7.3、震度7でした。

東北地方から九州にかけての広い範囲で揺れを感じるほどの大地震で、西宮市にも激震が走り、多数の人命が失われ生活の営みにも大きな打撃を与えました。

西宮市では、阪急夙川駅付近、阪急甲東園駅付近、阪急西宮北口駅付近、阪神今津駅付近が震度7と判定されました。



1.17を忘れない

平成7年1月17日午前5時46分、私たちのまち西宮を未曾有の地震が襲いました。長年にわたって築き上げてきたまちが一瞬にして破壊され、多くの尊い命が失われました。

この震災で受けた深い悲しみや被害から、まちを再生する取組みの中で私たちは多くの教訓を得ています。

